

2011年の賀詞交歓会!

●春日部地区浦高会・賀詞交歓会

2月6日(日)は、春日部地区浦高会の賀詞交歓会でした。10回目の今回は、武里の「すし割烹・松葉」に27人の会員が集まりました。最初に会長の三輪昭彦さん(15期)【写真①】からご挨拶がありました。



「皆さん、今晚は、2011年、明けましておめでとうございます。私たちの会も順調な歩みをしており、昨年秋には創立10周年の『春日部麗しの杜づくり』事業の植樹祭を開催し、多くの会員の皆様と川久保自治会の皆様で53本の木を川久保公園に植えることができました。昨日、麗和会館で地域職域同窓会責任者会議があり、常任理事の鳥井さんと事務局長の香田さん、私の3人で出席しました。全部で23の地域職域があり、控え目に報告してきたのですが、他の地域からは素晴らしい取り組みであると高い評価をいただき、久喜麗和会からも“ぜひ活動の方法を教えてもらいたい”というような声がありました。活動内容につきましては、後程、香田さんから報告があると思いますが、こうした活動も、皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。さて今日は、会員スピーチでは石川さんから『目の話』があり、その後懇親会となります。今年は兎年、運が開ける年であると言われております。皆様にとりまして、さまざまな活動が順調に進むことを祈念し、また、ご健勝をお祈りして挨拶の言葉とさせていただきます。本日は、ありがとうございました。」

＊

第1部会員スピーチは眼科医・石川一之さん(39期)【写真②】からの「目の話 ～見えるということ～」でした。

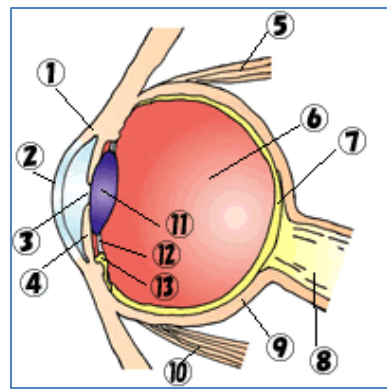
＊

◆目の構造と働き

皆さん、今晚は、39期の石川です。今回は目のお話です。3枚の資料をお持ちしましたので、順番に見ていただきながら話を進めてまいります。

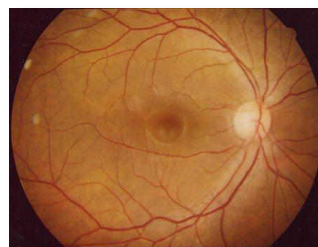


目の構造は、図のように①結膜、②角膜、③瞳孔、④虹彩、⑤上直筋、⑥硝子体、⑦網膜、⑧視神経、⑨強膜、⑩下直筋、⑪水晶体、⑫毛様体小体、⑬毛様体となっています。



そして、目は眼窩(がんか)と呼ばれる骨で囲まれたくぼみに脂肪をクッションとしておさめられています。大きさは大体、直径25mmほどの球体です。しかしながら、ただの球体ではなく、角膜や水晶体、強膜など様々なもので構成されています。

目の働きは、カメラによく例えられます。角膜(かくまく)がフィルター、水晶体(すいしょうたい)がレンズ、強膜(きょうまく)がカメラのボディ、



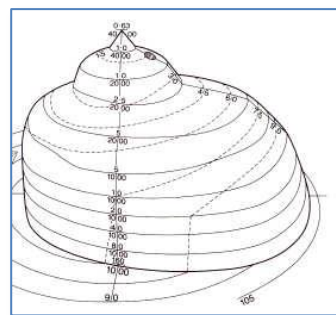
虹彩(こうさい)がしぼり、網膜(もうまく)がフィルム、毛様体(もうようたい)をピントあわせに例えることができます。

次の写真が眼底の網膜です。ここは唯一血管が見える部分です。ここに結ばれる像は、上下左右が反転して映ります。片目を閉じて、どの部分が見にくいかを医師に伝えていただければ、どの部分に病気があるかが分かります。時計回りに下が見にくい時に「6時の方向が見にくい」というとプロですね。

＊

◆見づらい

次に見づらさについてアウトラインをご紹介します。見づらいというのは、一つが視力障害です。これはかすむ、ぼやけるという状態です。もう一つが視野障害です。見えないところがある、見えないのでよく蹴つまずく、鴨居にぶつけるという状態です。視野は見える広がりをも球状に表わせるので、ドーム形の視野の島【図②】というものがあります。これを平面に表して、医師はカルテに記していきます。脳梗塞などを患いますと、右脳がやられると左側が見えなくなります。



◆片目が視野障害を起こしても異常を感じない

片目が視野障害をおこしても僚眼（反対側の目）が正常だと異常を感じにくくなります。

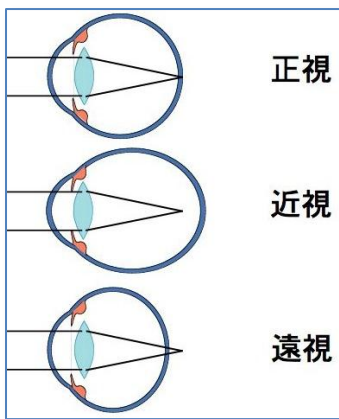


緑内障では神経線維が障害され、抜け落ちた部分の感度が落ちます。神経線維が多く抜けるほど感度が大きく落ち込み視野が欠けてきます。等高線が滑らかな島ではなく、突然窪地のように低くなったり、穴があいたりします【写真④：緑内障のイメージ】。見えないところが出てきたら眼科にご相談ください。

緑内障では神経線維が障害され、抜け落ちた部分の感度が落ちます。神経線維が多く抜けるほど感度が大きく落ち込み視野が欠けてきます。等高線が滑らかな島ではなく、突然窪地のように低くなったり、穴があいたりします【写真④：緑内障のイメージ】。見えないところが出てきたら眼科にご相談ください。

*

◆屈折異常（近視と遠視）



次に眼鏡を掛けている人すべてに言える内容です。正視というのは、網膜上にしっかりと焦点が当たっている状態で、近視は網膜の手前に焦点がある状態。遠視は逆に網膜を過ぎて焦点ができるので、どこも焦点が合わず、大変疲れる状態です

【写真⑤：正視、近視、遠視】。

◆屈折の変化

生直後は遠視度がほぼ2D程度と強く、成長とともに眼軸の延長や角膜の扁平化などにより正視化を生じ急激に遠視度が減少し正視の方に向かいます。おおむね小学校の高学年から中学入学頃に正視へ移行し、その後は高校や大学入試の受験勉強で近視化が加速されるようです。

この近視化はほぼ25歳過ぎくらいまで続き、この年齢付近を境にして今度は遠視化の方向に向かいます。

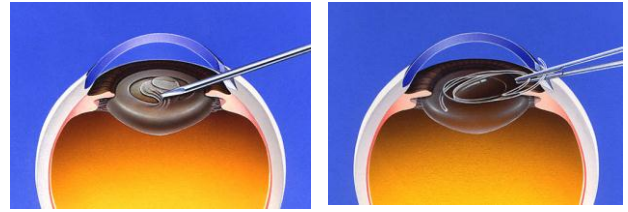
老眼が気になる40～45歳くらいで正視付近に達し、30歳ぐらいから70歳くらいまで遠視度が単調増加の傾向にあります。70歳を超えた頃に遠視化のピークを迎え、その後はまた近視化へ向かっています。

小さい子に眼帯をするのは禁物です。視刺激がなくなると眼球弱視になってしまうことがあります。4～6歳の子供たちへの眼帯は、特に禁物です。

また、勉強、DSなどで近くを見過ぎているの目にはよくありません。45分近くを見たら、15分は遠くを見て目を休ませることが大切です。これは大人にもいえることです。

◆白内障とLASIK手術

白内障の手術は99%、下図⑥のようなものです。



黒目と白目のさかいを3～5mmくらい切開した後、水晶体の前の膜を直径約5mmの円形に取りります。次に超音波白内障乳化吸引装置を用いて、水晶体の中身を乳化し吸い出します。空になった水晶体嚢内に、直径6mmの眼内レンズを折りたたんで挿入します。

この手術はお子さんたちにはしません。一度手術し、再発した場合にはレーザーで治療します。

若い人たちの間で、近視を直す方法としてレーシック手術があります。【下図⑦：レーシック手術】



角膜を薄くする手術で、手術が簡単なことと回復が早いことから現在の屈折矯正手術の9割以上がこのレーシックです。

ただし、30歳を過ぎると遠視化が始まるので、遠視化との関係をどう考えるか、ご本人の判断になりますね。ご清聴ありがとうございました。

*

講演のあと記念撮影【写真⑧】を行い、懇親会に入りました。懇親会では、私から「春日部麗しの杜づくり」の活動報告や出席者全員からの近況報告もあ



り、和やかなうちに約2時間が過ぎていきました。そして最後は校歌斉唱で終わりました。(´o`)v